

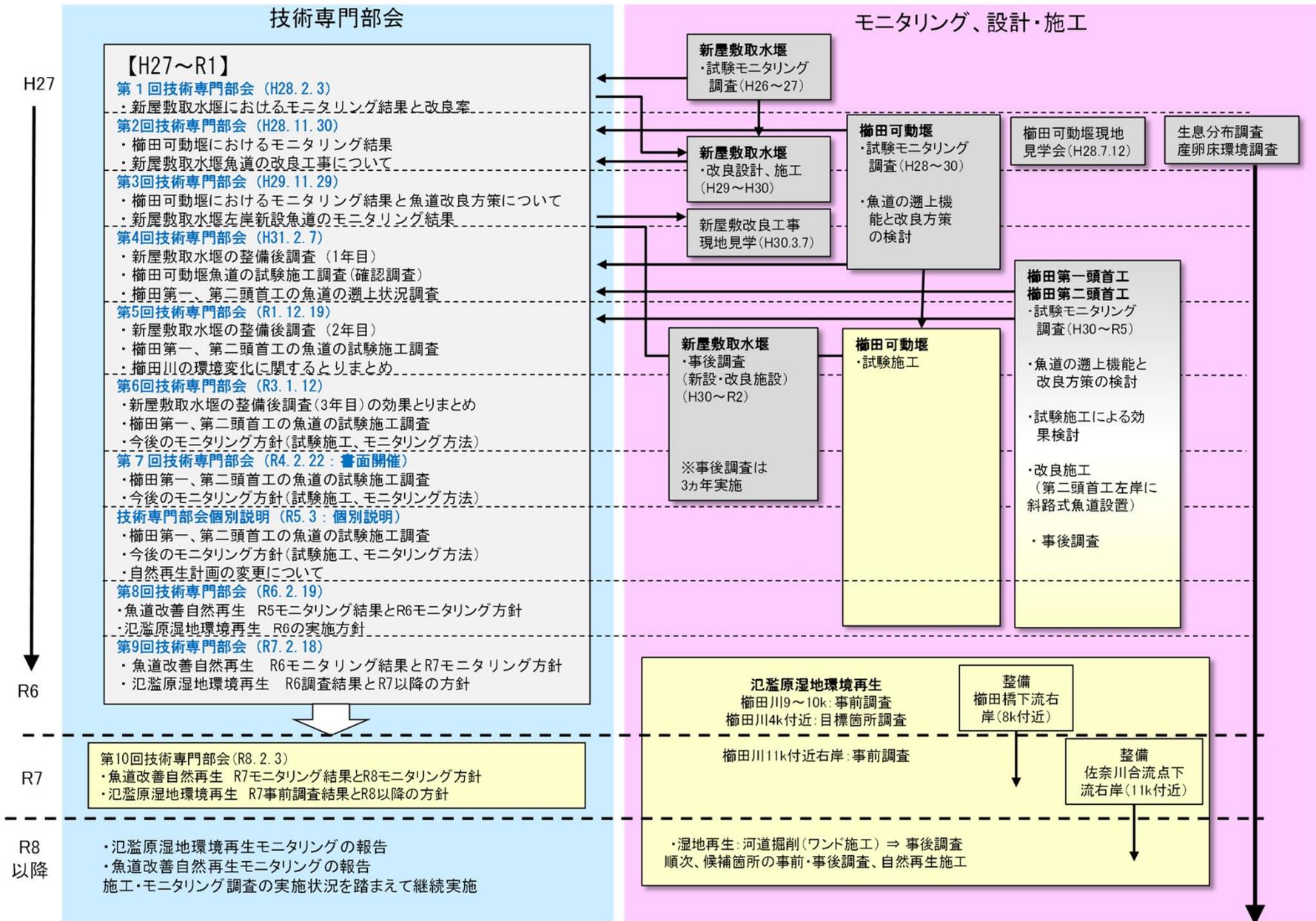
【技術専門部会報告】

令和8年2月

技術専門部会
部会長 河村 功一

1. 技術専門部会の取り組み

- ・縦断的連続性の再生に向けて、新屋敷取水堰、櫛田第二頭首工、櫛田第一頭首工、櫛田可動堰の魚道改良（簡易的な改良を含む）を行い、モニタリング調査を実施してきました。
- ・R6以降は、氾濫原湿地環境の再生を進めています。



2. 第10回技術専門部会の開催概要

- 第10回技術専門部会を令和8年2月3日に開催しました。自然再生モニタリング調査結果や次年度モニタリング方針について報告し、意見交換を行いました。

(1)日時：令和8年2月3日(火) 15:00～16:30

(2)場所：松阪市松阪公民館 講座室1

(3)議題：

①魚道改善自然再生モニタリングについて

- 事務局より、『魚道改善自然再生』に向けた魚類の生息・産卵環境等のモニタリング調査結果について報告が行われました。
 - 遡上期、活動期において、アユや回遊性底生魚の生息分布が堰上流にも拡大していることが確認されました。
 - 産卵環境調査においては、産卵数は昨年度より減少しており、新屋敷取水堰下流及び第一頭首工下流で産卵が確認されました。

②氾濫原湿地環境再生について

- 事務局より、『氾濫原湿地環境再生』に向けた事前モニタリング調査結果について報告が行われました。
 - 再生箇所（11～12k付近左岸）では、高水敷の大部分で外来植物群落等が優占していた一方、水際の一部において抽水植物群落が見られ、トンボ類や氾濫原湿地性の魚類の生息が確認されました。
 - 今後整備を進めることで、抽水植物群落が拡大し、トンボ類や氾濫原湿地性魚類の増加が期待されます。

(主な意見)

- 比高が高い箇所を掘削するだけでは、再び土砂が堆積していくと想定される。自然の営力を利用してワンド環境を維持するなど、多自然川づくりの観点も取り入れてみてはどうか。
- 底生動物調査でアメリカザリガニが確認されているが、本種は湿地環境再生の目標としているトンボや淡水二枚貝等の生息に悪影響を及ぼす。トンボ等の生物の増加を目指すのであれば、アメリカザリガニを駆除する必要があるだろう。

③今後の進め方について

- 事務局より今後の進め方について報告され、確認しました。

(主な意見)

 - 氾濫原湿地のモニタリングにおいて、簡易測量や写真撮影でも良いので、出水による土砂堆積の状況等をモニタリングして欲しい。



技術専門部会の開催状況